

カルピス仲間

二十六期生 藤並 久子

私たちの代の女子は、とても人数が多く（卒業時で十名）練習嫌いもそれに比例していたようで、いつも私は鬼のような顔をして「練習に出ろ」とみんなを追いかけまわさなければならぬ状態でした。しかし敵もあるもの、様々な言い訳と策略を駆使して逃げまわるのです。そんな彼女たちも合宿という不思議と参加してくれました。昼休みや夜の自由時間にやったトランプのナポレオンと、練習あとの一杯のカルピスが彼女たちをひきつけたのでしょうか？ なにしろ、今でもOB会には決して顔を出さなくせに、内輪で『ナポレオン大会』をやるなどと声をかけると、何をおいても駆けつけて来るような人たちなのです。

そんなわけで合宿はいつもにぎやかで、私の楽しい思い出は、多くが夏休みの合宿に結びついているようです。その中で何といっても印象に残っているのは、二年の夏合宿の『女子部カルピス速飲み競争』です。差し入れなどでいただいたカルピスは、適量の水でうすめて、カルピスのビンに入れて冷蔵庫で冷やしておき、練習の終わったあとなどに飲んだので

すが、その年はカルピスの差し入れが多く、最終日になっても随分残ってしまい、一人一本つつ飲んでまだまだ余るといふ状態でした。そこで誰ともなく「カルピスのビン一本を誰が一番速く飲みほすか競争しよう」という案が出て、みんなの大賛成を得、最後の練習が終わるのを待って実行に移されることになりました。つまり男性諸氏が見たらびっくりするような女だけのカルピスのがぶ飲み競争がおこなわれたわけがあります。ちなみに、カルピス一ピンは六三三CCであり、ビールの大ビンとほぼ同量であります。それを一気に飲みほしてゆく十数名のうら若き乙女たち？ 一位の栄冠を勝ち得たのは、確か当時一年のWさん、二位も一年で、我らが学年のTさんがかろうじて三位、私は必死で四位に漕ぎつけましたが、実にヤングパワーの活躍が目立ちました。さすがには、気分が悪くなり飲みきれない人もいました。しかしそれでもまだ足りず、余っていたカルピスや飲めなかった人のぶんまでがんばる人もいたので、実に恐ろしい。みんな若かったのですね。今では、すました顔でキャンパスやオフイス街を歩いているのでしょうか。あのときのみなさんお元気ですか？ 今でも胃腸はじょうぶですか？ 今度みんなであうときは、もうちょっと大人の雰囲気洋酒なんかで乾杯することにしましょう。